

行者登山道の変遷

1920年代後半から1930年代前半にかけて、日本では山登りの人気が高まりました。1937年1月4日、勝間健之助が下関山岳会をつれて、行者谷を通して大山山頂へたどり着きました。彼らは、このルートを通して登頂した最初の登山者です。その後数十年間、このルートをとった登山者の台頭により登山道に大きな被害が生じ、また北壁の崩壊の心配も生じました。1988年に、今日、行者登山道として使われている新たな登山道がつけられました。